

令和 7 年度

病虫害発生予報利用の手引き

三重県病虫害防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

目 次

I. 情報の種類	1
II. 情報の使い方	2
III. eメールサービスとは	2
IV. 予報の年間計画	3
V. 予報の各項目の説明	4
1. 「向こう 1 か月の予報と対策」について	4
2. 「作物別の状況」について	4
3. 「発生時期・発生量(平年比)の予察根拠」について	14
4. 「予察項目の見方」について	15
5. 「気象のデータ」について	15
6. 「おしらせ」について	15

I. 情報の種類

国と都道府県は農作物の病虫害についての発生予察を行わなければなりません(植物防疫法)。三重県では病虫害防除所がその役を担っていて、予察の結果は次のような**発生予察情報**(予報、警報、注意報、特殊報)及び**防除技術情報**として発表します。

発生予報:定期的に発表する向こう1か月間の病虫害発生動向の予測です。

本県では 4～8、10、3 月の各月の下旬に発表します。本手引きは主にこの情報についての解説です。

発生予察警報:重要な病虫害の大発生による甚大な被害が予想され、早急な対策が必要と判断された場合に発表する極めて重大な情報です。

発生予察注意報:警報を発表するほどではないが、重要な病虫害の多発生が予想され、早めの防除が必要な場合に発表します。

発生予察特殊報:本県初の病虫害が確認された場合や、従来の病虫害の加

害状況が特異的に変化した場合に発表します。初発見であることに意義のある情報なので、原則として県下の分布状況は不明であり、また防除技術が確立していない場合もあります。その意味において概して指導者向けの情報です。

防除技術情報:その他の重要な情報として適宜発表します。注意報ほど重大でない多発生の場合、1 か月を超える長期予報、あるいは農薬使用上の注意が生じた場合など、いろいろな情報を含みます。

これらの発生予察情報は病虫害防除所ホームページに掲載し、県内の農協、市町および農業関係機関に公文書として送付するとともに、技術情報以外は県庁記者クラブに所属する報道機関に発表します。

Ⅱ．情報の使い方

病虫害発生予察情報が発表された時には、ぜひ病虫害防除所ホームページをご覧ください。ホームページの利点は次のとおりです。

- eメールサービスを受けている場合は、発表と同時に閲覧できること。
- ホームページには他にも関連する記事・グラフがあること。
- 写真はカラーで見られること。
- 過去の情報も見られること。

1) 営農担当者

農家への直接の口頭指導だけでなく、農薬販売窓口と連携し、必要なページをコピーして窓口・掲示板に張り出したり、農家に配布するなどしてご利用ください。

公文書は本所、本店にしか送付しませんので、回覧・転送に時間のかかる支所、支店の担当者の方はぜひeメールサービスに登録してください。情報はスピードが命です。

2) 農業者

農業者の方は病虫害防除所ホームページで見てください。eメールサービスに登録すれば、情報発表を見落とすおそれなくなります。

防除の要否についての最終的な判断は、「作物別の状況について」の表中の「要防除圃場率」の項目を参考にしてください。

Ⅲ．eメールサービスとは

1) 目的

3月～8月と10月の各月の下旬頃の病虫害発生予報及び不定期の注意報・警報・特殊報、技術情報が発表されたことを、eメールにより速やかにお知らせするものです。

2) 誰が登録できるの

インターネットを利用できる環境下にあり、eメールを受信できる方は誰でも登録できます。登録は無料です。

携帯電話のeメールでも登録できます。

3) 登録すると

病虫害発生予報・注意報・警報・特殊報、防除技術情報が発表されたことをeメールにより配信しますので、パソコンのインターネットを通じて速やかに情報の収集ができます。通信料は登録者様のご負担となります。

4) 登録方法

三重県の総合メールマガジン管理配信システムを利用して配信しています。防除所の解説頁を経由するか、直接配信システムを通して登録してください。

防除所: <http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

配信システム: https://www1.pref.mie.lg.jp/s_form/mag/17/entry.asp?CTR=NEW

5) 登録の取り消しは

ご希望により、いつでも登録を取り消すことができます。また、再登録もいつでもできます。

6) 個人情報の取り扱い

登録していただいた個人情報については、三重県個人情報保護条例(平成14年三重県条例第1号)に基づき取り扱います。

IV. 予報の年間計画

予報の対象とする作物と病害虫の年間計画です。以下の計画以外に、病害虫の発生が問題になる場合には、注意報や技術情報として臨時に発表することがあります。

●は発生時期の予察、○は発生量の予察です。

作物	病害虫	1号	2号	3号	4号	5号	6号	7号
		4月24日	5月22日	6月19日	7月23日	8月21日	10月17日	3月19日
イネ	葉いもち		●○	○				
	穂いもち			●○	○			
	紋枯病			●○	○			
	白葉枯病			○	○			
	斑点米カメムシ類			○	○	○		
	イネクロカメムシ		○	○	○			
	イネミズゾウムシ	●○	●○					○
	ツマグロヨコバイ			○	○	○		
	セジロウンカ			●○	○			
	トビイロウンカ				○	○		
コムギ	赤かび病	○						○
ダイズ	紫斑病				○			
	コガネムシ類				○			
	ハスモンヨトウ				○	○		
	吸実性カメムシ類				○	○		
カキ	そうかび病	○	○	○				○
	黒点病		○	○	○	○		
	かいよう病	○	○	○	○	○		○
	ミカンハダニ	○	○	○	○	○	○	○
	チャノキイロアザミウマ		○	○	○	○		

作物	病害虫	1号	2号	3号	4号	5号	6号	7号
		4月24日	5月22日	6月19日	7月23日	8月21日	10月17日	3月19日
ナシ	黒星病	○	○	○				○
	赤星病	○						○
	ハダニ類	○	○	○				
	アブラムシ類	○						
ブドウ	べと病		○	○				
果樹共通	カメムシ類	○	○	○	○	○		
チャ	炭疽病		○	○	○	○		
	もち病		○					
	カンザワハダニ	○	○	○	○	○	○	○
	チャノホソガ	第1世代 ○	第2世代 ○	第3世代 ○		第4世代 ● 第5世代 ○		越冬世代 ●
	チャノミドリヒメヨコバイ		○	○	○	○		
	チャノキイロアザミウマ	○	○	○	○	○		
	クワシロカイガラムシ	○		○		○		
	チャノコカクモンハマキ	○		○	●○			
トマト	疫病						○	
イチゴ	灰色かび病							○
	うどんこ病		○	○			○	○
	炭疽病		○	○	○	○	○	
	ハダニ類	○		○			○	○
ハクサイ	白斑病						○	
キャベツ	菌核病							○
	黒腐病						○	
ネギ(青)	ネギコガ		○	○			○	
	シロイチモジヨトウ					○	○	
ネギ(白)	ネギコガ			○	○		○	
	シロイチモジヨトウ				○	○	○	
野菜共通	コナガ		○				○	
	ハスモンヨトウ						○	

V. 予報の各項目の説明

予報は 15～20 頁ほどの冊子です。ホームページには pdf の形式で掲載しています。内容は 7 つに分かれているので、以下、その区分ごとに内容の見方と使い方を説明します。

1. 「向こう1か月の予報と対策」について

発表時点から向こう1か月の病害虫の発生動向についての予察の概要です。次の「作物別の予報と対策」のうち防除指導に役立つ部分を中心として、1 頁に収まるように要約しています。

この頁をコピーするだけでも、簡単な指導に使えます。店頭、掲示板への貼り出しにもお使いください。

2. 「作物別の状況」について

冊子の中心となる部分です。作物の病害虫ごとに、発生時期、発生量(平年比、程度)、要防除圃場率、発生消長、防除の注意事項の表にしています。毎回、表の見方を簡単に説明する頁を設けていますが、更に詳しい説明は次のとおりです。

1) 発生時期(平年比)

防除適期の早遅の判断に使います。従って、発生時期がわかってもあまり防除時期の参考にならない病害虫では、この予察はしません。

平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の 5 段階評価で予測します。平年値は原則として 10 年間のデータの平均値ですが、近年著しい増加傾向あるいは減少傾向のある病害虫(カメムシ類、ハスモンヨトウ、コナガ等)で

は 5 年間の平均を考慮する場合があります。

日 数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評 価	早	やや早		平年並					やや遅		遅			

なお、発生時期が毎年大きく変化するイネのイネミズゾウムシ、セジロウンカは、本県では日数の基準をこれより大きく取り、半月ほどのズレで「早」または「遅」の評価にしています。

2) 発生量(平年比)

発生密度の平年値(原則、10 年間のデータの平均値)からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の 5 段階評価で予測します。平年値との相対的な比較を示す指標のため、実際の発生量と感覚的に合わない場合があるので注意してください。

平年値						
↓						
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

3) 発生量(程度)

発生程度を「小、中、大、甚」の 4 段階評価で予測します。評価の基準は、大雑把には「見た目の多さ・少なさ」と考えてください。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」は客観的な数値で区分しているのに対して、この「発生量(程度)」は主観的な判断で区分しています。そのた

め見かけ上の感覚に合った基準です。

区分	見た目に少ない ←————→ 見た目に多い			大きな被害が懸念される
評価	小	中	大	甚

「発生量(平年比)」と合わせることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きいが平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断します。

評価の区切りは病害虫と時期ごとに異なり、「発生量(平年比)」に連動して決定します。その決定のための一覧表は「7) 発生量(平年比・程度)・要防除圃場率の対照表」で示します。

4) 要防除圃場率(平年比)

防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。

「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要と予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むと予想されます。

区分	簡単な防除	通常の防除	念入りの防除
評価	低	普通	高

評価の区切りは病害虫と時期ごとに異なり、「発生量(平年比)」と「発生量(程度)」に連動して決定されます。その決定のための一覧表は「7) 発生量(平年比・程度)・要防除圃場率の対照表」で示します。

5) 発生消長の一例

発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日間ほどの病害虫の発生消長の一例を大まかにグラフで示します。発生密度の増減やピークを模式的に示しているだけなので、あくまで目安として利用してください。

6) 防除の注意事項

病害虫の特徴や防除方法に関する説明です。向こう1か月の防除の参考にしてください。

7) 発生量(平年比・程度)・要防除圃場率の対照表

「作物別の予報と対策」の表の中で、「発生量(平年比)」、「発生量(程度)」、「要防除圃場率」の項目は互いに連動しており、原則として下記の表の基準に従って決定します。同じ病害虫でも発表月(号)によって基準が異なります。この表の基準は本県における病害虫の発生状況を勘案して作成したものであり、状況に応じて年度途中でも適宜修正することがあります。

1 イネ

1) 葉いもち

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

2) 穂いもち

第 3 号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	普通				高	

第 4 号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小	中		大		甚
	要防除圃場率	普通			高		

3) 紋枯病

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	普通			高		

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小	中		大		甚
	要防除圃場率	低		普通			高

4) 白葉枯病

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低				普通	高

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低				普通	高

5) 斑点米カメムシ類

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中	大～甚
	要防除圃場率	普通			高		

第 4 号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	普通				高	

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	普通				高	

6) イネクロカメムシ

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大～甚	
	要防除圃場率	低	普通		高		

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小	中			大～甚	
	要防除圃場率	低	普通		高		

7) イネミズソウムシ

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大～甚	
	要防除圃場率	低	普通			高	

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低				普通	高

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中	大～甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

8) ツマグロヨコバイ

第 3 号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小	中			大	甚
	要防除圃場率	低					高

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小	中	大			甚
	要防除圃場率	低					高

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小	中	大			甚
	要防除圃場率	低					高

9) セジロウナカ

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低					高

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低					高

10) トビイロウンカ

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低				普通	高

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低				普通	高

2 コムギ

1) 赤かび病(感染量)

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	普通				高	

3 ダイズ

1) 紫斑病

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

2) コガネムシ類

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小	中			大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

3) ハスモンヨトウ

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大～甚	
	要防除圃場率	低	普通			高	

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小	中			大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

4) 吸実性カメムシ類

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小	中			大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小	中			大～甚	
	要防除圃場率	低	普通			高	

4 カンキツ

1) 黒点病

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

2) そうか病

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中～大	甚
	要防除圃場率	低			普通	高

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中～大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中～大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中～大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高

3-1) かいよう病(温州みかん)

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中～大	甚
	要防除圃場率	低			普通	高

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中～大	甚
	要防除圃場率	低			普通	高

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低			普通	高

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低			普通	高

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低			普通	高

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低			普通	高

3-2) かいよう病(中晩柑類)

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低		普通	高	

4)ミカンハダニ

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中		大	甚
	要防除圃場率	低	普通		高	

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通		高	

第6号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中		大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

5)チャノキイロアザミウマ

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第 3 号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

5 ナシ

1)黒星病

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低		普通	高	

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	普通				高

2)赤星病

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低		普通	高	

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

3) ハダニ類

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大～甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

4) アブラムシ類

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大～甚
	要防除圃場率	低	普通			高

6 ブドウ

1) ペト病

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中～大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

7 果樹共通

1) カメムシ類

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低			普通	高

主な対象： カンキツ、ナシ

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

主な対象： ナシ

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

主な対象： ナシ

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

主な対象： カキ、ナシ

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

主な対象： カキ、カンキツ

8 チャ

1) 炭疽病

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小			中	大 甚
	要防除圃場率	低	普通			高

2)もち病

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中～大	甚	
	要防除圃場率	低			普通	高	

3)カンザワハダニ

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第6号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

4)チャノホソガ

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中～大	甚	
	要防除圃場率	低	普通			高	

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中～大	甚	
	要防除圃場率	低	普通			高	

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中～大	甚	
	要防除圃場率	低	普通			高	

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

5)チャノミドリヒメコバヤ

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低	普通			高	

6)チャノキイロアザミウマ

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中～大	甚	
	要防除圃場率	低			普通	高	

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中～大	甚	
	要防除圃場率	低			普通	高	

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

7)クワシロカイガラムシ

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

8)チャノコカクモンハマキ

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

9 トマト

1)疫病

第6号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

10 イチゴ:第3号の対象は育苗圃

1)灰色かび病

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小			中	大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

2)うどんこ病

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中	大		甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中	大		甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

第6号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小				中～大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

3)炭疽病

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高	

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高

第6号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高

4)ハダニ類

第1号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高

第6号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高

11 ハクサイ

1)白斑病

第6号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高

12 キャベツ

1)菌核病

第7号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高

2)黒腐病

第6号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中～大	甚	
	要防除圃場率	低		普通		高

13 ネギ(白ネギ、青ネギ)

1)ネギコガ

第2号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中～大	甚	
	要防除圃場率	低		普通		高

第3号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中～大	甚	
	要防除圃場率	低		普通		高

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中～大	甚	
	要防除圃場率	低		普通		高

第6号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中～甚	甚	
	要防除圃場率	低		普通		高

2)シロイチモジトウ

第4号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大～甚	
	要防除圃場率	低		普通		高

第5号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大～甚	
	要防除圃場率	低		普通		高

第6号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高

14 野菜共通

1)コナガ

第 2 号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多	
	発生量(程度)	小		中		大	甚
	要防除圃場率	低	普通				高

第6号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小		中	大	甚
	要防除圃場率	低		普通		高

2)ハスモンヨトウ

第6号	発生量(平年比)	少	やや少	平年並	やや多	多
	発生量(程度)	小	中			大～甚
	要防除圃場率	低	普通			高

3.「発生時期・発生量(平年比)の予察根拠」について

作物の病害虫ごとに、「作物別の予報と対策」の「発生時期」と「発生量(平年比)」を再掲し、なぜそのように予察したかを「予察根拠」で説明します。

これによって「発生時期」と「発生量(平年比)」に関する予察精度の判断に使ってください。

1)要因の考え方

発生時期の根拠としての(+)は発生時期遅延の要因、(-)は発生時期早期化の要因と考えられるものです。(±)は平年並の要因です。

発生量の根拠としての(+)は発生量増加の要因、(-)は発生量減少の要因と考えられるものです。(±)は平年並の要因です。

予察の評価は、(+)と(-)の数の差ではなく、各々の要因を個々に経験的な重み付けをして総合的に判断しています。

2)計算方法

発生量(平年比)を判断する要因のうちの数値化できる調査項目については、本県では原則として過去10年間のデータを使い、ブートストラップ法または順位法という統計手法によって発生密度の平年比(つまり、平年より多いか少ないか)を判定しています。10年分のデータがない項目については主観的に判定しています。

「虫数は5.3頭(平年19.3頭)と少」のような記述は、平年比はブートストラップ法を使った比較ですが、平年値19.3は普通の算術平均です。なお、同じデータを使ってもブートストラップ法による平均値と算術平均は異なる値になります。

「虫数は5.3頭(平年19.3頭)と少の傾向」のような「の傾向」という記述はブートストラップ法を使っていません(順位法を使ったか、10年分のデータが揃っていない場合です)。平年値19.3は普通の算術平均です。

3)根拠における気象予報の取扱い

気象台の「1か月予報」は下図のような確率表示で発表されていて、10%、50～70%などは統計的に有意性が高いとされています(確率表示は「6気象のデータ」では割愛しています)。病害虫の発生密度を平年値からの多い少ないで判断する場合は、この有意性の基準を重視しています。30～40%の場合は有意性がないものとして、根拠には採用しません。

降水量	少ない 10	平年並 40	多い 50
-----	-----------	-----------	----------

ただし病害虫によって、特定の時期(開花期、孵化期など)の気象条件が特に重要である場合には、確率表示の基準には従いません。(例:コムギ赤かび病については、開花期に雨が降るかどうかが重要であり降雨量の平年比はあまり重視しません)

4) 調査地点

「予察根拠」の説明では調査地点を次のように表記しています。

表記	括弧	調査地点
予察灯 ()	畑・松阪市 水田・松阪市 伊賀市 紀北町 御浜町志原 御浜町上野	農業研究所 農業研究所 伊賀農業研究室 紀北町島原 紀南果樹研究室 御浜町上野
県予察圃		農業研究所、紀南果樹研究室、茶業研究室の圃場
県予察圃フェロモントラップ		農業研究所（野菜及び果樹害虫） 紀南果樹研究室（カンキツ害虫） 茶業・花植木研究室（茶害虫） 林業研究所（果樹カメムシ類）
県予察圃誘引粘着トラップ		茶業・花植木研究室（チャノキイロアザミウマ）
巡回調査圃場		一般農家の圃場を特定し、月 1 回ずつ巡回して調査（農蚕第 2153 号の定める「地区予察ほ場」も含みます）
一般圃場		普及指導員や病虫害防除員からの情報等
所在地 農業研究所： 松阪市嬉野川北町 茶業・花植木研究室： 亀山市椿世町 伊賀農業研究室： 伊賀市森寺松ヶ谷 紀南果樹研究室： 御浜町志原 林業研究所： 津市白山町二本木		

4. 「予察項目の見方」について

本冊子の「作物別の予報と対策」の説明を 1 頁に要約したものです。

5. 「気象のデータ」について

気象台発表のデータを引用あるいはグラフ化しています。今後の防除計画の参考にしてください。天気予報は刻々と変化していますので、気象台からの新しい情報に留意してください。

病虫害発生予察の根拠にも使っています。

1) 1 か月予報

名古屋地方気象台による東海地方の 1 か月予報(木曜日発表)を、本県に合わせて抜粋しています。

2) 気温・降水量・日照の推移

東京管区気象台発表(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)の約 3 か月分の気象の変化をグラフ化したものです。本県では、気温、降水量、日照時間が発表されていて、かつ大きく気候の異なる三か所の観測地点(津市島崎町、伊賀市緑ヶ丘本町、尾鷲市南陽町)を使っています。

6. 「おしらせ」について

事務的なお知らせです。

文言や内容が前号と異なる項目には「**NEW**」の印がつけられています。